

6人で3年間、仲良く真剣に漕ぎ切りたい



小林秀峰高校 ローイング愛好会

前列⑤から大庭南教諭、淵上創史さん、釜崎蒼さん、村橋光希さん
後列⑥から白崎陽翔さん、日高颯来さん、下原優空さん

2年後に本県である国民スポーツ大会を見据え、5月、小林秀峰高校に「ローイング愛好会」が発足した。集まったのは、サッカー部や剣道部など、中学時代はそれぞれ違う部活動をしていた1年生6人。全員が未経験からのスタートだ。「新しいことに挑戦したい」「どうせなら1期生に」など入会の動機はさまざま。主将の釜崎蒼さんは「最初に競技の名前を聞いた時は『何それ?』という気持ちだった。未知への好奇心が一番の理由」と、競技との出会いを振り返る。

出ればその厳しさは喜びに変わるという。「自分の力で水上を進み、風を切る感覚がとにかく楽しかった。マシントレーニングとは気持ちよさが全然違います」と目を輝かせる。練習会場への移動などでは、保護者や地域の協力が不可欠で、「多くの人に支えられている。ボートはもちろん、礼儀も学んでいきたい」と感謝を口にした。現在の課題は、体づくりだと即答する釜崎さん。「全員、筋肉も体力も足りていない」と冷静に分析。まずは9月に開催される県の1年生大会で「全員でしっかり漕ぎ切ること」が直近の目標だ。

須木の山々が色を変え、季節が巡っても、彼らはただひたすらに漕ぎ続ける。2年後、大きな歓声と熱気に包まれる小野湖。主役として水面にいるのは、彼らであってほしい。

大庭先生は「チームは仲が良く明るい。技術も体力もこれから」と温かい眼差しで見守り、「大会が良いきっかけになれば」と彼らの成長に期待を寄せる



小林
こばやしびと
Vol.131